

平成30年第9回教育委員会会議録

日 時	平成30年8月28日（火）13時30分開会 15時00分閉会
場 所	教育長室
出席委員	教育長 宮 崎 肇 委員 佐々木 義 朗 委員 荒 井 由紀恵 委員 橋 場 正 人 委員 吉 村 恭 子
欠席委員	—
事務局職員	教育部長 澤 田 徹 教育部次長 千 田 義 彦 教育部学校指導室長 小 松 義 幸 企画総務課長 伊 藤 樹 美 学校教育課長 高 橋 裕 輔 文化施設課長 倉 島 毅 学校指導課長 佐 藤 貢
書 記	企画総務課総務係長 田 中 稔 大
議題及び議事の概要	別紙のとおり

## 1 第9回教育委員会会議付議事件及び結果表

平成30年8月28日（火）13：30 開会

15：00 閉会

事件番号	件名	議決結果
議案第1号	平成30年度一般会計補正予算（教育費関係予算）について	原案可決
議案第2号	平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について	原案可決
議案第3号	平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について	原案可決
議案第4号	千歳市社会科副読本編集委員会規則の一部を改正する規則の制定について	原案可決
議案第5号	平成31年度に使用する小学校用及び中学校用教科用図書等の採択について	原案可決
報告第1号	教職員の処分について	報告済
報告第2号	教職員の処分について	報告済
報告第3号	教職員の処分について	報告済

## 2 議題及び会議の概要

教育長	<p>平成30年第9回教育委員会会議を開催いたします。</p> <p>議案第5号は、意思形成過程事項であるため、報告第1号から第3号は、人事に関する議事であるため、秘密会にしたいと考えますが、よろしいでしょうか。</p>
委員	一同了承
教育長	日程2 会議録の承認について、お願いします。
総務係長	<p>平成30年7月23日に開催されました平成30年第8回教育委員会会議は、議案が2件、報告が4件ございました。</p> <p>議案につきましては、議案第1号 教育委員会職員の任免について、議案第2号 千歳市学校運営協議会委員の委嘱について、原案のとおりご決定いただいております。</p> <p>また、報告につきましては、報告第1号 平成30年度千歳市標準学力検査・知能検査分析報告書について、報告第2号 平成29年度指定管理者モニタリング結果の報告について、報告第3号 平成30年度における世界文化遺産の推薦候補の選定について、報告第4号 市内小学校における感染性胃腸炎の発生について、報告済みとさせていただきます。以上でございます。</p>
教育長	会議録の承認の件は、よろしいでしょうか。
委員	一同了承
教育長	<p>それでは、日程3 教育長の報告です。</p> <p>お手元の定例校長会資料をご覧くださいと思います。</p> <p>(資料に沿って、次の内容について説明)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. いじめアンケート調査について</li> <li>2. 平成30年度全国学力・学習状況調査結果を受けた今後の取組について</li> <li>3. 夏季休業中における教職員研修の実施結果について</li> <li>4. 長期休業中における学校閉庁日の試行について</li> <li>5. 学校指導室による一般学校訪問を終えて</li> <li>6. 教職員の服務規律の保持、交通事故・違反の未然防止に向けた取組について</li> <li>7. 平成30年度特別支援教育に関する学校巡回訪問結果から</li> <li>8. 平成31年度当初定期人事異動について</li> </ol>

委員	<p>その他連絡事項は、記載のとおりです。</p> <p>私からの報告は以上となりますが、何かご質問等ありますでしょうか。よろしいですか。</p> <p>一同了承</p>
教育長	<p>それでは、日程4 議案に入ります。</p> <p>議案第1号 平成30年度一般会計補正予算（教育費関係予算）について、説明をお願いします。</p>
企画総務課長	<p>議案第1号 平成30年度一般会計補正予算（教育費関係予算）について、ご説明を申し上げます。</p> <p>提案理由であります。平成30年千歳市議会第3回定例会において、予算を補正するため、本案を提出するものでございます。</p> <p>1 寄附金でございます。補正項目は、(ア) 歳入、18款1項1目 寄附金に1,721千円を追加し、(イ) 歳出、10款1項1目 積立金に1,721千円を追加するものでございます。</p> <p>補正理由につきましては、寄附採納があったことから、奨学基金に充当するため、関係する歳入及び歳出予算を補正するものでございます。</p> <p>補正の内容であります。歳入の寄附金につきましては、本年4月13日から8月8日までに寄附採納がありました76件、1,721千円を寄附金、奨学基金として、増額補正するものでございます。また、歳出の積立金は、歳入予算として増額補正する寄附金額全額を奨学基金積立金として、増額補正するものでございます。</p> <p>参考でございますけれども、奨学基金への寄附採納の状況及び第3回定例会補正後の基金の残高を記載してございます。</p> <p>以上、提案内容について、ご説明申し上げました。ご審議のほど、よろしくお願ひ申し上げます。</p>
教育長	<p>ただいまの説明に対して、ご意見、ご質問等ありますでしょうか。よろしいですか。</p>
委員	<p>一同了承（原案可決）</p>
教育長	<p>それでは、提案のとおり決定することといたします。</p> <p>続きまして、議案第2号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について、説明をお願いします。</p>

<p>学校教育課長</p>	<p>議案第2号 平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表について、ご説明いたします。</p> <p>提案理由であります、平成30年度全国学力・学習状況調査結果の公表方法等を決定するため、本案を提出するものであります。</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果については、平成25年度まで、文部科学省が都道府県ごとの平均正答率などを公表するにとどまっております、市町村別の結果や学校別の結果については、学校の序列化が進むことなどを理由にして公表が認められていませんでした。</p> <p>その後、平成26年度に調査実施要領が改正され、市町村の判断により、市町村単位の数値公表や各学校に対する公表の指示を行うことができるようになりました。</p> <p>当市におきましては、実施要領の改正を受けて平成26年度から調査結果の数値公表を行っており、各小中学校に対しても公表の方針を示し、公表を指示してきたところであります。</p> <p>今年度の調査結果の公表に当たっては、1「実施要領での規定」の、(1)「調査の目的」を勘案し、(2)「公表に係る取扱い」に基づき、(3)「配慮すべき事項」を考慮して決定するものとします。</p> <p>公表方法については、結果の公表が過度な競争につながる危険性があるといったデメリットは考えられるものの、地域や保護者への説明責任を果たし、教育への関心を高める効果が期待できることから、昨年度までと同様、市全体の平均正答率や平均正答数などの調査結果を分析結果とあわせて公表するとともに、各学校に対しては、各教科の領域別正答率を、指数を用いて棒グラフで示すことや、今後の指導方針を説明することなどの公表方針を示した上で、各学校が工夫した内容を、学校だよりやホームページなどを活用して、より分かりやすい形で公表するよう指示することとします。</p> <p>調査結果の公表に係るスケジュールについては、「からふる夏号」への掲載、校長会・教頭会への報告を経て、9月中旬には数値及び分析結果の概要版を市ホームページへ掲載する予定としております。</p> <p>なお、市全体の調査結果の公表については、別冊資料により、この後、学校指導課長から説明いたします。</p>
<p>学校指導課長</p>	<p>お手元の議案第2号別冊「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果概要」を使って、説明させていただきます。</p> <p>最初に「教科に関する調査結果」の「小学校の教科全体」について、ご説明いたします。</p> <p>表の2段目「平均正答率」の欄をご覧ください。千歳市、全道、全国と並んでいます。新聞等による発表については、この部分が用いられていま</p>

す。千歳市と全道については整数値と小数値を併記しておりますが、昨年度より文部科学省は小数点以下の数値の差異については実質的な意味を持たないとの判断から、全国平均以外を整数による公表を行っています。ただ、北海道教育委員会も独自に小数点第1位までの数値を算出していること、また、本市においても経年変化を見取る意味で独自に小数点第1位までの数値を算出し、掲載しております。

教科に関する調査結果において特徴的なことは、小学校では、国語、算数ともに、主として活用に関する問題であるB問題において、全国平均との差が拡大しており、活用力の育成が課題となっております。

中学校の教科に関する調査結果において特徴的なことをまとめておりますが、中学校では、国語A・B、数学A・Bの4教科全てで全国平均との差を縮めています。中でも数学Aが0.4ポイント、数学Bが1.9ポイント、全国平均との差を縮め、「やや低い」から「ほぼ同様」という状態になっています。また、3年に1度行われている理科におきましては、わずかではありますが、全国平均を超えています。

続いて、今年度の各教科の結果について、記載しております。ページの構成についてご説明します。

上段左側の表は、平成27年度からの4年間の平均正答率と全国平均を100とした指数を記載しており、右に指数による経年変化を示した折れ線グラフを記載しております。

2段目左側、緑・赤・青の三色の棒グラフは、過去3年間の全国の下位25%と同じ正答数に位置している子どもの割合を表しています。緑が千歳ですが、緑が多いというのは好ましい状況ではないと見ていただければと思います。

右のグラフは千歳市の正答数を棒グラフで表し、主に下位層において全国と比較した場合の特徴をコメントしています。

中段は各調査項目についてレーダーチャートで全国、全道と比較しております。緑色の線が千歳市児童、青色の線が全国のものであります。

右側には教科の領域別の経年変化をグラフで表しています。線の色は先程のレーダーチャートに合わせています。

下段には、今回の教科別の調査結果について、特徴的なことをリード文として示し、以下、分析と今後の改善策等を記載しております。

小学校国語Aでは、特に課題のある領域は、「読むこと」と「書くこと」の2領域です。特に「書く」能力の育成は、喫緊の課題であり、国語の授業の中で、さまざまな文章の種類や形態の特徴とその書き方を指導した上で、国語以外のあらゆる教育活動の中で意図的に文章を書く指導が求められます。

小学校国語Bについては、全国平均との差が拡大していますが、特に「書

くこと」については、平成27年度以降、全国との差が最大となっており、A問題でご説明したように、国語の授業の質を高めることと併せて、総合的な学習の時間や道徳など、他領域との関連も図りながら、指導場を増やすことが求められます。

小学校算数Aについては、昨年度全国平均を2.1ポイント上回る結果でありましたが、今年度はわずかながら全国平均を下回る結果となりました。本市の児童は計算力に長けており、領域全体の平均正答率を押し上げていましたが、今年度は計算問題が1問も出題されなかったことも要因の一つであると分析しています。ただ、市内小学校の算数Aでは半数以上が全国平均を超えており、これまでの取組に一定の成果があると考えております。

小学校算数Bについては、10問の設問中、記述式が5問、出題されており、この問いの千歳市の平均正答率は全国を100とした時の指数で80.6と大変低い数字となっています。先ほどの国語とつながりますが、やはり書く能力がやはり課題だということです。グラフ等から読み取った事実、解決の方法、判断の理由の記述力を高める工夫が今後の授業の中で必要とされます。

小学校理科については、4領域中3領域で全国平均との差が広がっています。ろ過の適切な操作に関する問題の平均正答率は、全国平均を9.2ポイント下回っています。

児童質問紙調査の結果についてお示しているページです。

中ほどにある棒グラフでひときわ目立つ項目は、「理科の授業では、理科室で観察や実験を週1回以上やっている」との問いの回答状況であり、これらの結果をクロスして考えると改善策が見えてまいります。

中学校の結果ですが、中学校国語Aでは、平成26年度に全国平均を超えて以降、徐々に低下傾向をたどっていましたが昨年、歯止めがかかり、今年度はわずかながら全国平均との差を縮めています。「話すこと・聞くこと」の領域が全国平均を超えたことと「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、漢字や文法の類ですが、これに改善傾向が見られたことが要因と考えられます。

中学校国語Bについては、「書くこと」と「読むこと」が課題となっています。「事実と意見の読み分け」、「中心的な部分と付加的な部分の読み分け」など、小学校5年生以降の学習内容の定着状況が総合的に図られていることから、小中連携の中で、共有して、高めていく必要がある部分があります。

中学校数学Aについては、全ての領域で全国平均との差を縮めています。中段以降の右側の四つの折れ線グラフをご覧ください。ここ数年、二領域が上がり、二領域が下がる折れ線グラフになっていましたが、今年度は

四領域全てで右上がりのグラフとなっています。

中学校数学Bについても、4領域中3領域で平均正答率が上がり、全国平均との差を縮めています。小学校と同様に5問出題された記述式の問題が弱く、数式を根拠に事柄が成り立つ理由を説明したりするなど、数学的な表現を用いて説明する学習機会を工夫する必要があります。

中学校理科は、教科全体で全国平均を上回りました。少し飛んで、生徒質問紙調査の結果ではありますが、中ほどの棒グラフで目に入ってくるのは、「理科の授業では、理科室で観察や実験を週1回以上やっている」との問いの回答状況であり、先ほどの小学校と真逆になっているのですが、中学校においては、全国平均を大きく上回っておるということで、中学校の理科において、実験・観察が頻繁に行われているということも好成績の一つの要因となっているのかなと見ております。

次に児童生徒質問紙の結果について記載しております。

今年度調査から設問が大幅に削減され、「テレビの視聴時間」「ゲームの時間」「スマートフォン等を利用した通話時間」などの設問がすべて削除されました。生活習慣に関する設問は、「朝食の摂取」「就寝・起床時刻」の3項目だけとなりまして、この3項目については、本市の児童生徒は既に全国と同様の状況にあることから、「生活習慣」については、本報告書から削除いたしました。

したがって、小学校学習習慣のページをスタートして、説明いたします。

学習習慣についても、「休日の学習時間」「通塾の状況」が削除されたことから、この二つの設問に変えて、「読書の時間」と「新聞を読む回数」を取り上げております。この2項目は学力との相関関係が強いということから選んでおります。

小学校では、「学年×10分+10分の家庭学習の取組」、これは千歳市で促進している活動ですが、この取組は極めて定着度が高い状況がうかがわれます。一方で、1日あたり2時間以上のグラフを見ると、最低このくらい勉強してくださいというところは定着したのですが、それ以上の勉強時間となると、全国平均をかなり下回っている状況となっております。また、家で普段10分以上読書をする児童も極めて少ない状況となっております。

自尊感情・規範意識等についても中段の棒グラフをご覧ください。

地域社会などで、ボランティア活動に参加したことがあると回答している児童が多く、地域とのかかわりは規範意識や自尊感情の高まりにも効果があることから、今後も維持したい数字であります。

小学校の各教科に関する質問ですが、先ほどの各教科の説明と重なる部分がございますので説明を割愛させていただきます。後ほど、お読みになっていただければと存じます。なお、今年度調査では、国語に関する設問

が削除されていることから、本報告書にも記載がありません。

中学生の学習習慣において特徴的なことは、一週間あたりの家庭学習の時間が短いということです。中学生の課題は何といても家庭学習時間かなと思います。一方で、読書の時間なのですが、先ほど小学校は全国平均を下回っていたのですが、中学生は読書については全国平均を超えております。読書週間と併せて家庭学習習慣を身に付けさせる工夫が必要かなと思っております。

中学生の自己有用感・規範意識に関する設問についての分析ですが、「自分にはよいところがある」という自尊感情に関する設問への肯定回答がここ数年で初めてプラスに転じています。また、小学校と同様に「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」という設問についても、非常に高い数字となっております。

続いては、先ほどの小学校と同じく、各教科に係る質問に関する分析ですので、説明を割愛させていただきます。後ほど、お読みになっていただければと存じます。

続いて、学校質問紙の結果をまとめております。

この部分については、本市の教育施策の重点を考慮し、項目を抽出して説明いたします。

算数・数学科における習熟度別少人数指導についての項目をご覧ください。質問番号小35、中34番は「習熟の遅いグループ」に対する習熟度別少人数指導、質問番号小36、中35番は「習熟の早いグループ」に対する習熟度別少人数指導の実施状況ですが、小・中学校共に全国平均を大きく上回っています。

I C T機器の活用についての質問です。どのグラフにおいても全国平均を大きく上回る結果となっております。学校指導室による学校訪問等においても、児童生徒の学習内容の理解につながるツールとして日常的に利用する風景が見られます。学校現場からも好評であり、千歳の教育の一つの特徴となっております。中学校においては、100%ほぼ毎日活用しているという答えとなっております。

小中連携・一貫教育の取組について、今年から新たに設問が増えました。

今年度から、本市では調査研究実践モデル校区事業を開始し、取組を進めているところであり、教育課程に関する共通の取組や全国学力・学習状況調査分析結果の共有について、今後、高まりを見せるよう、この質問に対する適正な進行管理が求められます。

授業や評価に対する教師と児童生徒の意識の違いとして、青色のグラフと緑色のグラフが混在しています。教師と児童生徒の意識を比較するため色分けしております。青色は学校質問紙の回答状況、緑色は児童生徒質問紙の回答状況です。これらのページで取り立てたのは、主体的・対話的で

	<p>深い学びの視点による授業改善に関する質問への回答状況です。</p> <p>「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」という設問に対して、学校質問紙調査では、小学校では全国平均をかなり上回り、中学校は、全国平均とほぼ同様であるのに対して、児童生徒の回答は、小中いずれも全国平均を下回っており、授業に対する教師と児童生徒の意識に隔たりがあります。</p> <p>次年度以降の本調査では、活用に主眼をおいた出題がなされることとなっており、単に用語等を記憶する、計算をするという学習だけでは対応できず、これは、これからの時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力を反映しているものでもあります。</p> <p>新学習指導要領に正対した組織的な授業改善が必要であり、学校指導室といたしましても、学校訪問等を利用して、各学校との協議及び指導・助言に努めてまいります。</p> <p>この冊子につきましては、各学校の校長・教頭に配付しており、各学校では、自校の調査結果と合わせて分析・考察をすすめております。</p> <p>また、学力向上検討委員会でも結果を検討しながら、次年度の提言内容に反映させてまいります。</p> <p>以上で、議案第2号別冊の説明を終わります。</p>
教育長	<p>只今の説明に対しまして、ご意見、ご質問等がありますでしょうか。よろしいですか。</p>
委員	<p>一同了承（原案可決）</p>
教育長	<p>それでは、議案第2号については、只今の内容で決定したいと思います。続きまして、議案第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について、説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>議案第3号 平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について、ご説明いたします。</p> <p>これも議案第2号と関連するのですが、提案理由としては、平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について、北海道教育委員会が作成する「北海道版結果報告書」への掲載に同意するため、本案を提出するものがあります。</p> <p>北海道教育委員会では、一層きめ細かく分かりやすい調査結果を示す観点から、市町村教育委員会の同意を前提として、平成30年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」に市町村の結果を掲載し、11月を</p>

	<p>めどに公表することとしております。</p> <p>また、学校別の結果公表については、北海道教育委員会としては行わず、市町村及び各学校の判断に委ねることとされています。</p> <p>当市では、これまでも北海道版結果報告書への資料掲載に同意しており、今年度も、地域や保護者への説明責任を果たすことなどを考慮して掲載することが適切と考えることから、掲載に同意することとしたく、ご提案いたします。</p> <p>なお、掲載資料の様式については、昨年度の掲載資料を添付しておりますが、今年度も同様のフォーマットとされていることから、今後学校指導課のご協力をいただきながら、石狩教育局と内容を協議してまいります。</p> <p>以上、よろしくご審議、ご決定をいただきますようお願いいたします。</p>
教育長	<p>只今の説明に対しまして、ご意見、ご質問等がありますでしょうか。よろしいですか。</p>
委員	<p>一同了承（原案可決）</p>
教育長	<p>それでは、このとおり決定することといたします。</p> <p>続きまして、議案第4号 千歳市社会科副読本編集委員会規則の一部を改正する規則の制定について、説明をお願いします。</p>
学校教育課長	<p>議案第4号、千歳市社会科副読本編集委員会規則の一部を改正する規則の制定について、ご説明いたします。</p> <p>提案理由であります、千歳市社会科副読本編集委員会の活動実態に即し、委員の任期を改めるため、本案を提出するものであります。</p> <p>社会科副読本編集委員会は、千歳市の小学校3、4年生が使用する社会科副読本「わたしたちの千歳」の発行に当たり、資料収集及びその内容調査や編集作業、活用方法の検討などを行っています。</p> <p>規則改正の内容については、新旧対照表を掲載していますが、「1年」としている委員の任期を、年度末までに改めようとするものです。</p> <p>委員の任命は、例年第1回編集委員会の開催に合わせ、7月から8月に行っておりますことから、年度をまたいだ任期となっております。</p> <p>また、編集委員はすべて学校の教員となっており、人事異動や退職、校内の分掌事務の見直し等があることから、年度ごとに一部委員の入れ替えがございます。</p> <p>このような事情から、毎年前任の委員の任期が満了してから新委員の任命を行っており、年々委員の任命時期が遅くなるという状況があるため、委員の終期を年度末とし、年度が替わり学校体制が整った後速やかに委員</p>

	<p>会を開催できるよう改めようとするものであります。</p> <p>なお、委員については再任が可能となっており、副読本の編集に当たっては過去の改訂経過を踏まえた検討も必要と考えておりますので、必要に応じて複数年同一の委員に就任を依頼するなど、適正な運用を図ってまいります。</p> <p>以上、ご審議、ご決定をいただきますようお願いいたします。</p>
教育長	<p>それでは、議案第4号につきまして、ご意見、ご質問等がありますでしょうか。よろしいですか。</p>
委員	<p>一同了承（原案可決）</p>
教育長	<p>それでは、このように決定することといたします。</p> <p>続きまして、議案第5号 平成31年度に使用する小学校用及び中学校用教科用図書等の採択について、説明をお願いします。</p>
委員	<p>一同了承（秘密会：原案可決）</p>
教育長	<p>それでは、議案第5号については、提案のとおり決定することといたします。</p> <p>次に日程5報告に入ります。</p> <p>報告第1号から報告第3号まで、教職員の処分について、一括して説明をお願いします。</p>
委員	<p>一同了承（秘密会：報告済み）</p>
教育長	<p>それでは、いずれも報告済みといたします。</p> <p>日程6 その他について、事務局から何かありますか。</p>
文化施設課長	<p>先月開催されました第8回教育委員会会議におきまして、報告第2号 平成29年度指定管理者モニタリング結果の報告のうち、青少年会館におきまして、年間利用者数の主な減少要因を「おあしす」通級生の減少によるものと報告したところでありますが、この「おあしす」の通級生と市内における不登校児童生徒数について、ご説明いたします。</p> <p>青少年会館の年間利用者数は、資料のとおりとなりますが、平成29年度は11,252人でありまして、前年度からの主な減少要因として、「おあしす」に通級する児童生徒が、対前年度1,068人の減によるものと説明したところであります。</p>

	<p>不登校児童生徒の推移は、資料にありますとおり、年々増加しており、平成29年度の不登校者数は、これまで最多の191人となっております。「おあしす」通級生と青少年会館の延べ利用者数で平成29年度が、対前年度で1,068人の減となっている要因といたしましては、月平均の正式通級者数が平成28年度は32人、平成29年度は17人となった旨、既にご説明したところであります。また、通級生のうち、高校受験を控え、他の学年より通級する日数が比較的多い中学3年生の人数として、年度末登録者のうち中学3年生の正式通級者では、平成28年度が20人であったのに対し、平成29年度は10人になったこと、また、通級率別人数内訳におきまして、通級率が70～90%区分に属する人数が、平成28年度は20人だったの対しまして、平成29年度は9人となったことが、年間延べ利用者数における1,068人の減少となった要因であると思います。</p> <p>ちなみに、それぞれの区分での通級率を中間の20%、40%、60%、80%と仮定いたしまして、開校日数、それぞれの通級率、人数で乗じたものを平成29、28年度の合計の差がおおよそ1,000人となりますことから、年間延べ利用者数の大幅な減少要因は、通級率70～90%の区分に属する人数の差が影響していると思われまます。</p> <p>説明は、以上でございます。</p>
教育長	<p>只今の説明に対しまして、何かご質問等ありませんか。</p>
荒井委員	<p>不登校の児童生徒数が増えているにも関わらず、通級生が減っているということですね。</p>
教育長	<p>今回で言えば、中学3年生の通級生が減っておりまして、先ほどありましたように、中学3年生は高校受験があるため、通う頻度が多くなりますが、その部分が減ったのが一番大きいということで、計算しても大体その数字と一致するというので、確認をしたというものであります。</p> <p>よろしいですか。</p>
委員	<p>一同了承</p>
教育長	<p>それでは、これについては、報告済みといたします。</p> <p>これをもちまして、本日の教育委員会会議を終了します。お疲れ様でした。</p>